

# データ品質SWG上期活動報告

## データ品質SWG

独立行政法人情報処理推進機構(IPA)

研究員 坂元哲平

2026年10月7日

AISI事業実証WG 2026年度上期報告会

**AISI** Japan  
AI Safety Institute



SWGリーダー

- IPA CKO (Chief Knowledge Officer)
- AISI 副所長

平本 健二  
Hiramoto Kenji

1990年4月 NTTデータ通信株式会社（現 株式会社NTTデータ）  
2008年7月 経済産業省 CIO補佐官  
2012年8月 内閣官房 政府CIO上席補佐官  
2021年9月 デジタル庁 データ戦略統括  
2023年7月 IPAデジタル基盤センター センター長  
2024年4月 AISI副所長[現職 兼務]  
2026年8月 IPA CKO [現職 兼務]



発表者

- IPA デジタル&AIシステムズ・デザインセンター 研究員
- AISI 評価リサーチグループ

坂元 哲平  
Sakamoto Teppei

2018年4月 株式会社NTTデータ（現 株式会社NTTデータグループ）  
• AI・データサイエンス領域の研究開発と社内外での活用推進に従事。公共系、金融系等の顧客業務へのAI導入にも携わる  
• 共著書に「XAI（説明可能なAI）そのとき人工知能はどう考えたのか？」（リックテレコム）  
2025年4月 IPA 研究員／AISII 事務局員

# データ品質SWGの活動の目的

- “Garbage in, Garbage out”と言われるように、データ品質がAIの性能・セーフティの要である
  - データの品質を高めることで、AIやデータが本来持っている価値を、より引き出す
- データが社内外で広く流通する時代において共通的なデータ品質管理の指針・メジャーが求められる
- データ品質に関する標準類と実装現場を繋ぐ実務的なガイドやツールを整備する



- 基本的なデータ品質特性
- バイアスと公平性
- メタデータ・アノテーション品質
- 非構造化データの正確性
- 来歴と透明性
- 外部データの最新性
- 機械可読性
- 可観測性・自動評価
- AI-Ready Data など

[AIセーフティに関する評価観点ガイド\(AISI\)](#)においても、AIセーフティ評価の10観点のひとつに「データ品質」が挙げられている

## AIセーフティ・インスティテュート (AISI)



★は本年度より新規参加

### 独立行政法人情報処理推進機構 (SWGリーダー)

ウイングアーク1st株式会社

株式会社NTTデータ

株式会社NTTデータ バリュー・エンジニア

国立研究開発法人産業技術総合研究所

兼松株式会社

独立行政法人国立印刷局

SAS Institute Japan株式会社

日本電気株式会社

富士通株式会社

PwC Japan 有限責任監査法人

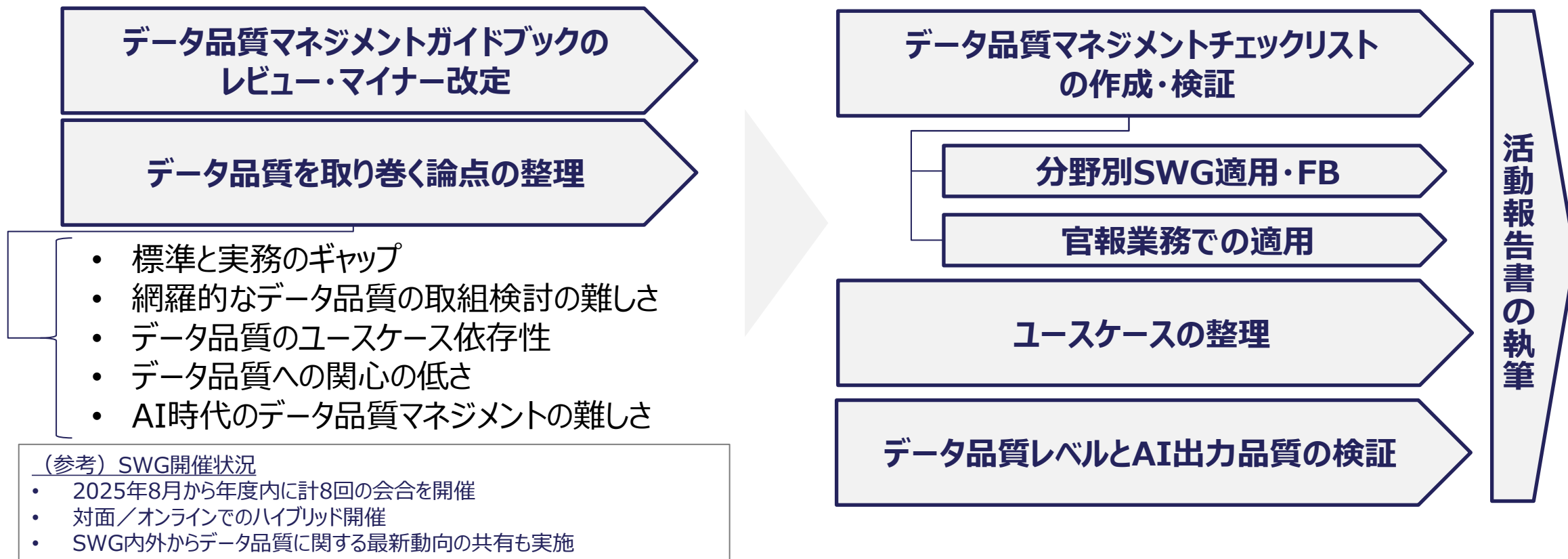
株式会社Quollo Technologies★

株式会社Elith★

事務局：株式会社三菱総合研究所

# データ品質SWGの2025年度成果

- データ品質マネジメントガイドブックのレビュー・マイナー改定を通して、データ品質を取り巻く論点を整理。
- 論点を踏まえて、チェックリスト作成、ユースケース整理、データとAIの品質検証を実施。
- 活動報告書としてそれらの活動状況や、市場動向、今後の活動の方向性を記載。
- 成果物の対象読者は、AIとデータに携わる実務者を主としつつ、行政担当者や研究者等を広く想定。



# データ品質SWGの2025年度成果の公表状況

- 2025年度活動報告、検証用データ、データ品質マネジメントガイドブックのマイナー改定版、データ品質マネジメントチェックリストを公表。
- データ品質マネジメントガイドブックについては、機械可読性のため日英両言語でMarkdown版も作成。

## 2026年4月15日公表資料 [\(リンク\)](#)

- データ品質SWG 活動報告書【日】
- データ品質SWG 活動報告書（概要版）【日/英】
- 検証で利用した官報データ【日】

### データ品質SWG 活動報告書【日】



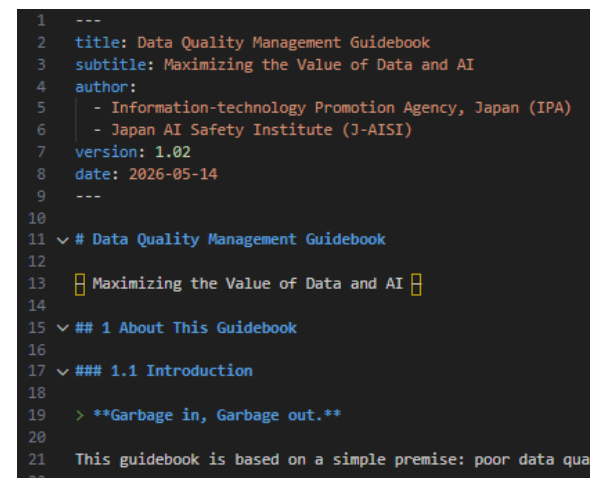
### データ品質SWG 活動報告書（概要版）【日】



## 2026年5月14日公表資料 [\(リンク\)](#)

- データ品質マネジメントガイドブック  
(Version 1.02)【日/英】【Word/Markdown】  
※日本語版は参考訳
- データ品質マネジメントチェックリスト (Version 1.00)【日】

### データ品質マネジメントガイドブック (Version 1.02)【英】【Markdown】



### データ品質マネジメントチェックリスト (Version 1.00)【日】

| データ品質マネジメントチェックリスト |       |                                              |      |      |                   |
|--------------------|-------|----------------------------------------------|------|------|-------------------|
| 属性                 | ご回答   |                                              |      |      |                   |
| チェック対象システム         |       |                                              |      |      |                   |
| チェック実施日            |       |                                              |      |      |                   |
| 記入者氏名(代表者)         |       |                                              |      |      |                   |
| No.                | プロセス  | チェック項目                                       | 優先事項 | チェック | 回答補足<br>(エビデンスなど) |
| 1.DPL-01           | データ計画 | データ品質が影響するサービス品質要件（精度、遅延、応答時間、コスト等）が定義されている。 |      |      |                   |
| 1.DPL-02           | データ計画 | AIシステムに必要なデータがリストアップ・整理されている。                |      |      |                   |
| 1.DPL-03           | データ計画 | 利用する各データについて、確認・管理すべき品質項目が定義されている。           |      |      |                   |
| 1.DPL-04           | データ計画 | 利用する各データについて、満たすべき品質要求レベルが定義されている。           |      |      |                   |
| 1.DPL-05           | データ計画 | データアーキテクチャおよび設計方針が文書化されている。                  |      |      |                   |
| 1.DPL-06           | データ計画 | 利用する各データについて、必要なときに利用可能な状態であることが確認されている。     |      |      |                   |

- データ品質をプロセス、ゲートウェイ、ガバナンスの視点から多角的に評価可能なガイドブックである
- 多様なデータ品質の国際標準を、実用的に適用しやすいフレームワークとして統合して作成している

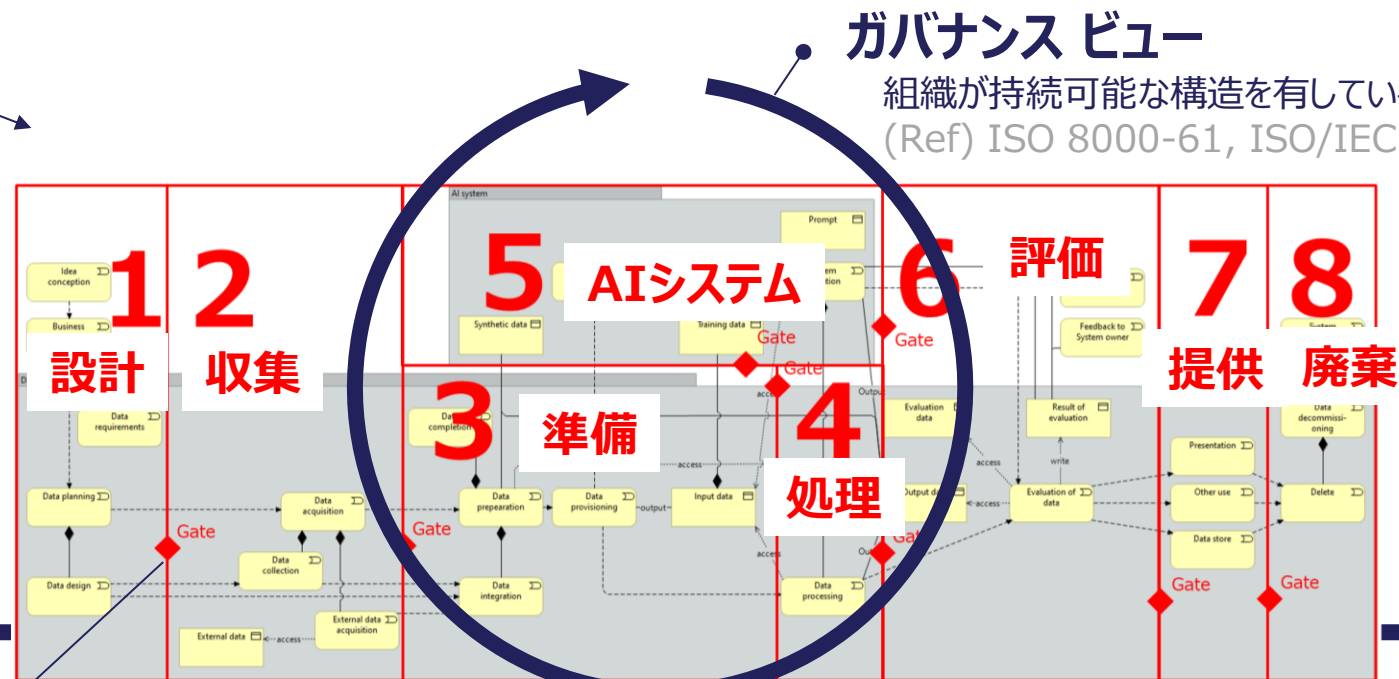
Data Quality  
Management Guidebook

2025-3-31

AISI IPA

## プロセス ビュー

データのライフサイクルに沿って、データ品質管理の実施状況进行评估する  
(Ref) ISO/IEC 25024, ISO/IEC 8183, ISO/IEC 5259-1, etc.



## ゲートウェイ ビュー (品質特性)

主要な意思決定ポイントにおいて品質基準を定義する  
(Ref) ISO/IEC 25012, ISO/IEC 5259, etc.

# 2026年度上期の活動概要

- 2025年度に整備したガイドブック・チェックリストについて、2026年度は実業務への適用を通じて実務適用性を検証し、改善につなげる。
- あわせて、AIによるデータ活用を見据え、メタデータ品質等の新たな論点を実証・整理する。

|          | 4月               | 5月           | 6月   | 7月                            | 8月   | 9月          | 10月                          | 11月   | 12月   | 1月                                      | 2月    | 3月 |
|----------|------------------|--------------|------|-------------------------------|------|-------------|------------------------------|-------|-------|-----------------------------------------|-------|----|
| 会合       |                  | 5/27<br>※第0回 | 6/29 | 7/27                          | 8/31 | 9/28        | 10/26                        | 11/30 | 12/21 | 1/25                                    | 3/1   |    |
|          |                  |              |      |                               |      | 上期報告会(10/7) |                              |       |       |                                         | 下期報告会 |    |
| アウトプット検討 | 2025年度<br>成果物の公開 |              |      | ガイドブック関連更新・拡充 ★               |      |             | ガイドブック関連更新・拡充 ★              |       |       |                                         |       |    |
|          |                  |              |      | 用語集の作成 ★                      |      |             | チェックリスト更新 ★                  |       |       | 次年度以降に向けた検討                             |       |    |
|          |                  |              |      | チェックリスト更新 ★                   |      |             | AIエージェントにおけるデータ品質<br>論点の整理 ★ |       |       | ツール化検討<br>活用のための可視化を行う<br>簡易ツール、自己認定ラベル |       |    |
| 適用検証     |                  |              |      | ROIシミュレーター検討（チェックリスト支援ツール）    |      |             |                              |       |       | 今年度成果物のレビュー・<br>とりまとめ・最終化 ★             |       |    |
|          |                  |              |      | チェックリストを用いた<br>品質管理プロセス評価検証 ★ |      |             |                              |       |       |                                         |       |    |
|          |                  |              |      | メタデータ品質検証 ★                   |      |             |                              |       |       |                                         |       |    |
| 教育啓発     |                  |              |      | ガイドブック紹介リーフレットの作成 ★           |      |             | ガイドブック紹介動画の作成 ★              |       |       |                                         |       |    |
|          |                  |              |      |                               |      |             | 普及展開・講演等                     |       |       |                                         |       |    |

チェックリストの実務適用性を確認するため、  
特徴の異なる5つのデータ管理業務を対象に適用検証を実施。

## 検証の概要

|       |                                                                                           |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 検証の目的 | データ品質マネジメントチェックリストを複数の実業務に適用し、データライフサイクル全体における取組状況を把握するとともに、チェックリストの実務適用性、有効性及び課題を明らかにする。 |
| 検証対象  | データ品質SWG参加組織が実際に行っている5つのデータ管理業務（詳細は下表）                                                    |
| 検証の流れ | 当該業務に普段関与していない者が第三者的にチェックリスト検証を実施。業務担当者へのヒアリング、関連資料・証跡の確認、チェックリスト回答案の作成・確認を2回繰り返した。       |

## 検証の対象業務

| 対象業務                        | 主なデータ                      |
|-----------------------------|----------------------------|
| 評価・判定結果に関する統計情報の作成・公開       | 入力：申込情報、結果情報 ⇒ 出力：統計データ    |
| 企業等の自己診断データの集計・分析及び比較レポート作成 | 入力：自己診断の回答データ ⇒ 出力：統計データ   |
| 企業アンケート調査データの集計・分析及び資料作成    | 入力：アンケート回答データ ⇒ 出力：統計データ   |
| 複数の公開データを統合したダッシュボードの作成・利用  | 入力：複数オープンデータ等 ⇒ 出力：ダッシュボード |
| 公開参照データモデルの作成・提供            | 入力：根拠となる法令等 ⇒ 出力：参照データモデル  |

実務への適用により、取組状況の可視化や改善論点の抽出には有効。  
一方で、優先順位付けや利用負荷など、実用上の課題も明らかになった。

## レポートの構成

### 検証の前提

目的、スコープ、検証の流れ等



### 事例ごとの検証報告

各事例の位置づけ・概要、チェックリスト適用結果、回答結果の考察・示唆等



### 横断分析

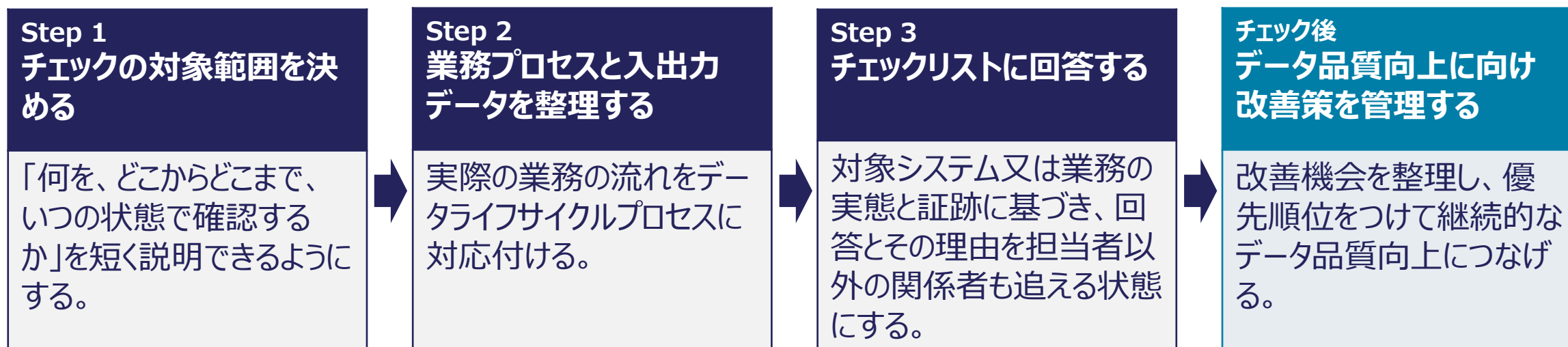
確認された有効性、実効性を高めるための課題、改善事項、継続検討事項

## 検証から得られた知見

|        |                                                                                                                                                                      |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 有効性    | <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 利用目的や取り扱うデータが異なる業務についても、データライフサイクル全体の取組状況を可視化・整理できた。</li><li>◆ 業務の目的・リスク・品質特性に照らして結果を考察することで、業務ごとに優先すべき改善事項を抽出できた。</li></ul> |
| 課題     | <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 実施率等の結果について、業務の目的・リスク・品質特性を踏まえて解釈するための考え方の整理が必要。</li><li>◆ 約80のチェック項目から、業務特性やリスクに応じて優先的に確認する項目を判断しやすくする必要。</li></ul>         |
| 改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 適正利用を支えるため、前提や使い方等を明確化。</li><li>◆ リスクに応じて取組の優先順位を検討する考え方を整理して実装。</li><li>◆ チェック項目の網羅性の向上及び利用負荷を軽減するよう構成の見直し。</li></ul>       |
| 示唆     | <ul style="list-style-type: none"><li>◆ チェックリストは「評価・認定」のためではなく、関係者で現状を確認し、改善につなげる自己点検ツールとして活用</li></ul>                                                              |

利用実績及びフィードバックを継続的に反映し、  
チェックリスト、使い方ガイド及び今後検討予定となる利用を支援するツールを一体として改善していく

検証の結果、チェックリストへの回答前に「対象範囲」と「業務・データの流れ」を整理することが重要と判明。実務での利用手順として整理。



## 生成AIによるチェックリスト回答支援

生成AIをシステム又は業務の整理や回答案の作成の補助に利用するためのプロンプト例を5つ掲載。  
組織の情報セキュリティ方針等を踏まえ、利用可能な情報の範囲で生成AIを活用する。

実務検証で得られた改善ニーズを踏まえ、  
信頼性向上と適正利用を促すため、前提や記載内容を具体化

上期：実務でより活用しやすいよう、位置づけ・使い方・記載内容を改善

## 位置づけ・使い方の明確化

- 目次の追加、使い方の明示、画像を文字に修正する等、利用容易性の観点で修正。

## 具体例・関連情報の点検

- 「実装例」について、抽象度を調整。
- 「主たる品質特性」について、当該チェック項目や実装例等により直接的に関わる品質特性を再選定。
- 「標準適合性」の記載の正確性を向上。



下期：チェック項目の構成整理や網羅性の向上について継続検討。

## ※改善箇所の例

チェックリストの「チェック」欄の選択基準を明確化。

|      | 改善前                     | 改善後                                             |
|------|-------------------------|-------------------------------------------------|
| 実施済み | チェック項目を実施している           | チェック項目に記載された取組が対象範囲で実施され、その実施を確認できる。            |
| 検討中  | チェック項目を社内で検討中or実施準備中    | 方針、計画、設計又は準備資料はあるが、本番運用又は確認は完了していない。            |
| 未検討  | チェック項目を実施・検討できていない      | 対象範囲に関係する項目であるが、対応方針又は実施を確認できない。                |
| 対象外  | チェック項目は対象システムにおいては実施対象外 | チェック項目が想定するデータ、処理又は活動が対象範囲に存在せず、当該項目を適用する必要がない。 |

# 検討テーマ例：インパクトシミュレータの試作・試用

データ品質向上による効果をわかりやすく可視化し、改善の優先順位付けや取組促進につなげるため、インパクトシミュレータの試作・試用を検討。

## テーマ概要

### 背景・目的

データ品質の改善による利益や放置による損失を可視化し、チェックリストの活用と改善の優先順位付けや取組促進につなげる。

### 検討内容

優先チェック項目に絞った簡易版を試作し、回答と試算結果の一体表示、計算前提の開示、提供方式を検討。

### 今後の予定

チェックリスト改訂版を踏まえ更新予定。SWG参加企業の試用を通じて有用性を確認し、計算ロジック・パラメータの調整と公開方法の具体化を進める。

## 試作画面例（第2回会合時点）

データ品質×AIリスク 統合簡易シミュレーター [インパクト設定・解説](#)

10大チェックリストが各種AIリスクに与えるウェイトを自由に調整・最適化し、動的な変化や計算プロセスを深く理解するための実務者向けシミュレーターです。

前提条件・ロジック解説 | **パラメータ調整 (Config)** | 統合シミュレーター

システム/事業名: 医療診断・患者サポートAIサービス | 業界分類: 医療・ヘルスケア (生命・プライバシー) | AI活用の重要度: 70% | AI種類: 生成AI (テキスト・画像等) | 意思決定への影響度: 補助 (人が確認・承認) | 対象とする利用者: 法人顧客 | 適用業界規制レベル: 中 (業界ガイドライン有)

データ特性: ☒ 個人情報 ☒ 高機微情報 (病歴等) ☐ 金融資産・口座情報 ☒ 他社知的財産/特許 ☐ 生体情報 ☐ 未成年者データ ☐ 一般公開データのみ

### ① 厳選10大DQチェック

1. データ計画 0% (Yes 0/3)

- No. 1.DPL-01: 利用するデータに関する法令・契約・権利制約が整理されている。  
特性: 標準適合性 ☒ 重要度: 高 ☒ [実証・リスク詳細](#)
- No. 1.DPL-02: データに高いプライバシー性または機密性を有する情報が含まれる可能性を把握し、必要な対応方針を整理している。  
特性: 標準適合性 ☒ 重要度: 高 ☒ [実証・リスク詳細](#)
- No. 1.DPL-03: データの取扱いおよび利用方法が、関連する法規制を踏まえて設計されている。  
特性: 標準適合性 ☒ 重要度: 高 ☒ [実証・リスク詳細](#)

2. データ取得 0% (Yes 0/3)

- No. 2.DAC-01: データを、信頼できる情報源から入手していることを確認している。  
特性: 標準適合性 ☒ 重要度: 高 ☒ [実証・リスク詳細](#)
- No. 2.DAC-02: [実証・リスク詳細](#)

### ② リアルタイム運動ログ

- 精度・信頼性: 100%  
X 実証: 当該チェック項目が多数未達成です
- 公平性・バイアス: 100%  
X 実証: 当該チェック項目が多数未達成です
- プライバシー・露出: 100%  
X 実証: 当該チェック項目が多数未達成です
- 攻撃脆弱性: 100%  
X 実証: 当該チェック項目が多数未達成です
- 法的・コンプラ: 100%  
X 実証: 当該チェック項目が多数未達成です
- 説明責任・不透明さ: 100%  
X 実証: 当該チェック項目が多数未達成です

### ③ 厳選アウトプット結果

総合評価 (DQ) スコア: 0 / 100  
AI特性スコア: 100%  
想定年間期待損失: 2,000億円  
実証率: (実証項目数/全項目数)

説明責任・不透明さ | 精度・信頼性 | 公平性・バイアス | プライバシー・露出 | 法的・コンプラ | 攻撃脆弱性

残留リスク評価への優先対策ロードマップ (最優先3選)

- 対策項目: No. 2.DAC-01  
データも、信頼できる情報源から入手していることを確認している。  
対策1: データ・標準適合性, 対策2: 重要度・高, 対策3: 重要度・高 [対応する](#)
- 対策項目: No. 5.AIS-01  
トレーニングデータとして、信頼できるデータが用いられていることを確認している。  
対策1: データ・標準適合性, 対策2: 重要度・高 [対応する](#)
- 対策項目: No. 1.DPL-02  
データに高いプライバシー性または機密性を有する情報が含まれる可能性を把握し、必要な対応方針を整理している。  
対策1: データ・標準適合性, 対策2: 重要度・高, 対策3: 重要度・高 [対応する](#)

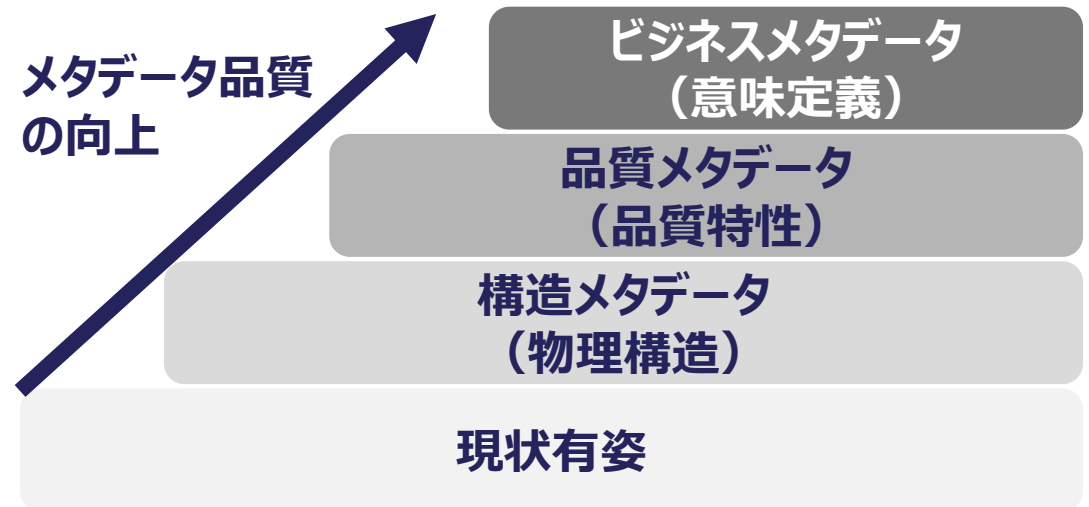
AIが有用なデータをより適切に発見・活用できるよう、メタデータ品質がデータ取得判断やAI推薦に与える効果を検証し、用途に応じた優先項目を整理。

実施主体：兼松株式会社・株式会社Quollo Technologies

## テーマ概要

|         |                                                  |
|---------|--------------------------------------------------|
| 背景・目的   | AIによるデータ探索を見据え、取得判断や推薦に役立つメタデータを明らかにし、効果的な整備を支援。 |
| 検討内容    | 避難所データの現状を分析し、チェックリストに基づきメタデータ項目73件の設計案を整理。      |
| 現時点での示唆 | 簡易試験から、説明情報の充実がAIによる有用なデータの発見・推薦を支える可能性が示唆された。   |
| 今後の予定   | 複数シナリオで比較検証し、取得判断・AI推薦に寄与する品質特性と優先項目を整理。         |

## 検証のイメージ



仮説：メタデータ品質が向上すると  
データ取得判断が向上するのではないか

人間・AIによる専門用語の混同を防ぎ、ガイドブックの理解を支援するため、日英両言語について、2種類の用語集案と本文の修正事項を整理。

## ① 前提用語集

### 23語    ガイドを読む前提となる用語

Data / Data Quality  
Artificial Intelligence / AI System 等

ISO等に基づく定義を示す必要がある、ガイドを理解するための用語

## ② 構成・フレームワーク用語集

### 39語    構成・読み方を理解するための用語

Process View / Data Planning  
Evaluation of Output / Accuracy 等

ガイドブックで採用した構成やフレームワークを理解するための用語。

## 用語集整備を通じて見えてきた今後の改善ポイント

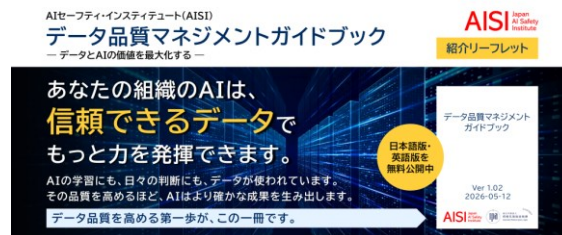
Process Viewの区分の見直し：ガイドブックで定めているフレームワークがガイドブック利用者の観点から適切かどうか。

品質特性の再整理：品質特性の重複可能性について、整理・統合の余地があるのではないか。

# ガイドブック紹介リーフレット作成

データ品質の重要性やデータ品質マネジメントガイドブックの周知のため、イベント等での配布を想定した紹介リーフレットを作成。

## おもて面



AIにおける「データ品質の問題」とは、どのようなものでしょうか？

AIは、学習・参照するデータの問題も、そのまま出力に映します。例えば――

- 読んだデータで、AIも読める  
→ データが正確でない
- 古いデータのまま、AIが答える  
→ データが最新でない
- 独自形式のまま、AIが読めない  
→ データが活用できる形でない

こうした身近な問題は、経営や公平性、安全にかかわる大きな問題にもなります。

実際にあった事例を参考に、データ品質上の論点をご紹介します。

**価格予測AI  
意思決定の誤り**

数百年前規模の損失を計上し、激しいデータを学習させたAIで取引判断をしていました。判断が現状に合わず、新商品が滞りました。

**採用AI  
判断の偏り(バイアス)**

女性に不利な評価が判明し、開発中止。採用実績に偏った性別データを手直ししていましたが、判断が偏り、女性に不利な傾向が確認されました。

**フィジカルAI  
安全上の問題**

接触事故が発生しサービス運行中止。自律走行する車両で、運用環境に慣れ得る物体の学習データ不足等により、障害物を認識できませんでした。

データ品質の観点では何を確認できたか？

- データが今の実態を表しているか、継続的に監視(代表性・最新性)
- 学習データの偏りが妥当か、導入前に確認(代表性・均索性)
- データ品質の観点では何を確認できたか？
- データが最新のままで、AIが読めるか
- データが活用できる形でない

こうしたリスクを低減し、データの価値を継続的に高めるための取り組みが「データ品質マネジメント」です。

“Garbage in, Garbage out.” ― 低品質なデータは、誤った出力・判断の一因です

低品質なデータ → AI → 誤った出力・判断

品質の確保は、リスク回避だけでなく価値向上にもつながります。

**低品質なデータ**

- 意思決定の誤り
- コスト増加
- 法的・規制上のリスク

**高品質なデータの利点**

- 正確性の向上
- 効率性の向上
- 信頼性の向上

データ品質を高める打ち手をまとめた一冊があります。うら面でご紹介しています

## うら面



データ品質を『どう考え、どう取り組むか』を整理した実践ガイドです。

本ガイドブックは、AIのためのデータ品質を確保するための考え方と実践をまとめた手引きです。国際標準を踏まえつつ、実務的なコラムやAI特有の観点も取り入れています。

本編でわかること(実務で使える要点的抜粋)

|            |                                                                      |
|------------|----------------------------------------------------------------------|
| 主要原則       | データ品質に取り組むうえで押さえるべき原則を整理しています<br>例: 利用者とニーズの理解、目的適合、品質とコストのトレードオフ など |
| AI利用時の追加考慮 | AI特有の論点への対応を解説しています<br>例: アノテーション(ラベリング)の品質管理、バイアス確認と公平性の確保 など       |
| 実務上の要点     | 3つのビュー(下記)ごとに評価観点を整理しています<br>評価観点はチェックリストとしても公開しています(入手方法は下記へ)       |

取り組みの全体像を、3つの視点で整理しています。

**プロセスビュー**

どのように品質が生み出されるか

データのライフサイクルに着目。計画・収集・加工・利用の一連の活動に加え、設計や要件定義といった上流の活動も含めて捉えます。クレンジングだけでなく設計から見直します。

**ガバナンス  
サイクルビュー**

どのように維持・管理するか

活動を継続的に実行・維持・改善する体制や仕組みに着目。方針、役割、責任、評価・改善の観点から、組織のデータ品質管理を捉えます。

**データウェイビュー  
(品質特性)**

どのような品質が実現されているか

データそのものに着目し、正確性や一貫性、完全性といった、データそのものの品質を評価します。多様性や均索性といったAIのための品質特性も含まれます。

3つのビューを組み合わせることで、評価・実行・継続的改善を一体的に管理できるようになります。

おもて面でご紹介した3つの事例。その打ち手は、いずれも本編に含まれています。

次のアクション → まずはチェックリストで、自組織の現在地を振り返ってみませんか

公開している関連資料(いずれも無料でご利用いただけます)

- ガイドブック本編
- チェックリスト
- Markdownload版

公開ページはこちら

1 入手する

QRコードから、ガイドブック本編とチェックリストを入手

2 振り返る

チェックリストで、自組織の取り組み状況を自己診断

3 共有する

振返りの結果を、本リーフレットとともに関係者・関係部署へ共有

常に “Garbage in, Garbage out.” を念頭に、AIの価値を最大化しましょう。

## 配布状況

- JUASスクエア2026 (9/3開催)  
(今後もイベント等で配布予定)

データ品質を、AI・データ活用の価値を引き出す基盤として捉え、  
実務適用・ユースケース検証・普及展開をさらに推進。

| 取組の柱                                       | 上期の活動・得られた知見                                                                               | 今後の取組の方向性（予定）                                                                                   |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>実証・ガイドの拡充</b><br>実務で使えるガイド・チェックリストの整備   | チェックリストの適用検証を通じ、取組の可視化と改善論点の抽出における有効性を確認。検証を踏まえて検証レポート、チェックリスト更新版、活用の手引きを整備。               | 品質管理の実効性向上に向け、利用の進展やAI利用リスクに応じた品質管理ができるよう、ガイドの改訂やチェックリストの構成見直しを行う。                              |
| <b>ユースケース</b><br>AI Readyなデータ活用に向けた論点を整理する | メタデータ品質検証では、メタデータ品質の向上がAIによる有用なデータの発見・推薦を支える可能性を確認。対象データの分析と、メタデータの整備水準別の比較検証に向けた項目設計を進めた。 | メタデータの比較検証を進め、データ取得判断・AI推薦に寄与する項目と優先度を整理する。並行して、AIEージェント利用時に配慮すべきデータ品質の論点を整理しガイドブックに反映する。       |
| <b>普及</b><br>データ品質の重要性の理解・活用促進             | インパクトシミュレータに関する検討、用語集の作成、ガイドブック紹介リーフレットの作成を実施。<br>ガイドブックやチェックリストの利用につながる入り口を整備した。          | インパクトシミュレータの試用・調整及びリーフレットの動画・セミナー等への展開を進める。併せて、利用者のニーズを踏まえ、ガイドブックやチェックリストの理解と活用を支える方策を継続的に検討する。 |

# AISI

Japan AI Safety Institute